

海外日本語教育研修を通じた教員養成プロジェクト

背景・目的

日本語教師は海外と国内、教育機関によって求められる役割が異なる。よって本プロジェクトでは、日本文学科の日本語教員養成課程の学生を対象に、海外で働く日本語教師に期待される役割、学習者側の視点に立つ教師とはどのような存在かについて内省し、自分なりの教師像を持つことを目的とした海外日本語教育研修プログラムを実施した。

実施内容

(1)事前学習

研修先で交流をする韓国人大学生との自己紹介書の交換、作文の添削活動を行った。さらに、韓国の大学で日本語教師をしている卒業生を2名招き、具体的な話を聞く機会を設けた。

(2)韓国研修(2012.9.10~9.16 参加者 25名)

・忠南大学校（提携校）訪問：韓国人教授による日本社会講義及び韓国文化講義を受講し、文化体験を行った。

・韓国の大学生との文化探訪リサーチ：事前に決めていたリサーチテーマに基づき、中級日本語学習者の韓国人大学生との合同グループでリサーチ活動を行い、発表した。

・徳沼高校の日本語授業視察：韓国人日本語教師の授業に参加、初級日本語学習者である高校生との交流活動を行った。

・国際交流基金日本語講座参加：上級日本語学習者向け講座（日本人教師担当）に参加し、実際に音声指導に関わったり、会話のパートナーになったりして、学習者と相互に学び合った。

(3)事後学習

各研修先で学んだ内容及び日本語教師に必要な役割について振り返るレポートをまとめた。



(国際交流基金日本語講座にて)

結果及び考察

研修参加後、学生が作成した「日本語教師の役割」についてまとめたレポートからは、主に以下のような気づきを読み取れた。

- ・日本の文化、日本人の考え方を伝える
- ・日本語や日本について客観的な視点を持って伝える（中立な立場を取る）
- ・学習者のやる気や積極性に応えサポートする
- ・国と国を繋ぐ。架け橋となっている人たちの手助けをする
- ・日本への入り口を作り、日本と学習者を繋ぐ

顕著だったのは「日本語を教えてあげる」という絶対的な立場としての日本語教師像ではなく、日本語学習を必要としている学習者を支援する役割を持つという視点を持った学生が多く見られたことであった。そのためには日本語・日本に関する知識や教養のみならず、学習者の背景（言語・文化・背景）を知る必要があると述べる学生も複数見られた。海外の場合、特に日本語教師が日本人の代表者として捉えられる可能性があるため、日本をよりグローバルな視点で客観視できることは特に重要である。日本と学習者とを「繋ぎ」、架け橋となる人材を支援する役割としての日本語教師像を具体的にイメージし、そのような教師を目指したいという明確な目標設定をすることができた点が本プロジェクトの意義であったと考える。